

■ 指定管理者制度導入施設 年度評価シート ■

評価年度

令和4年度

1 基本情報

公の施設名	相模原市立緑の休暇村センター 相模原市立青根緑の休暇村いやしの湯 相模原市立津久井合唱館
指定管理者名	一般社団法人 青根振興協議会
指定期間	平成31年4月1日から令和6年3月31日
施設設置条例	相模原市立緑の休暇村センター条例、相模原市立青根緑の休暇村いやしの湯条例、相模原市立津久井合唱館条例
施設の設置目的	青根地域の豊かな自然環境の中で、市民の健全な休養と研修の場を提供し、もって市民福祉の向上と地域社会の発展に寄与する。(相模原市立緑の休暇村センター条例第2条) 温泉資源の活用による市民の福祉の向上及び健康の増進を図り、市民のふれあいと交流を促進し、もって地域の活性化に寄与するため。(相模原市立青根緑の休暇村いやしの湯条例第2条) 市民が行う合唱、楽器演奏等の音楽活動及び交流活動の場を提供することにより、合唱の里づくりの推進及び音楽文化の振興並びに市民の総合交流の促進に寄与するため。(相模原市立合唱館条例第2条)
施設概要	【緑の休暇村センター】 所在地:緑区青根807番地2 開館日:昭和55年6月8日 管理面積:12434.00㎡ 延べ床面積:762.35㎡ 構造:鉄骨造地上2階、木造 主な施設:宿泊室6室、コテージ3棟、テニスコート2面、食堂 【青根緑の休暇村いやしの湯】 所在地:緑区青根844 開館日:平成17年5月11日 管理面積:4187.33㎡ 延床面積:999.87㎡ 構造:鉄骨造一部木造平屋建 主な施設:温泉施設、貸切休憩室 【津久井合唱館】 所在地:緑区青根851番地 開館日:平成6年7月1日 敷地面積454.96㎡ 延床面積:105.24㎡ 構造:鉄骨造1階
施設所管課	緑区役所区政策課(緑の休暇村センター及び青根緑の休暇村いやしの湯) 緑区役所津久井まちづくりセンター(津久井合唱館)

2 管理実績

項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
【休暇村センター】 利用者数合計(人)	4,564	4,322	3,974	1,432	1,405	2,240	
【休暇村センター】 利用料金合計(円)	9,910,930	9,409,140	8,578,410	4,633,602	3,944,520	6,689,597	
【いやしの湯】 利用者数合計(人)	104,457	101,385	82,679	51,133	60,782	86,042	
【いやしの湯】 利用料金合計(円)	65,045,800	65,020,460	53,670,220	34,453,910	65,882,338	96,789,845	
【合唱館】 利用者数合計(人)	1,151	1,109	790	55	194	267	
【合唱館】 利用料金合計(円)	192,150	165,900	115,500	21,000	64,050	60,900	

3 成果指標の達成度

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
D	3施設全体を通じて、新型コロナウイルス感染症に起因する施設の閉鎖をすることなく、3年ぶりに通年営業を維持することができた。特に、緑の休暇村センターでは前年比約6割増、青根緑の休暇村いやしの湯では前年比約4割増と、施設利用者数について復調傾向にあることがうかがえる。 評価については、評価年度における成果指標の達成度の3施設平均値が80%未満であることから、D評価とするもの。

項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
3指標の平均値（%）	81.2%	76.7%	70.7%	28.9%	39.3%	51.7%	/

指標1	緑の休暇村センター
指標名（単位）	施設利用者数(対象施設:客室、コテージ、食堂、テニスコート)(人)
指標式と指標の説明	施設の年間利用件数/12カ月 単位:人 目標数値は平成28年度と平成29年度の2年間の利用件数(1カ月当たり)の平均値5%増とする。

項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（人）	440	440	420	420	420	420	420
実績値（人）	380	360	331	119	117	187	/
達成度（%）	86.4%	81.8%	78.8%	28.3%	27.9%	44.5%	/

指標2	青根緑の休暇村いやしの湯
指標名（単位）	施設利用者数(対象施設:入浴施設)(人)
指標式と指標の説明	施設の年間利用件数/12カ月 単位:人 目標数値は平成28年度と平成29年度の2年間の利用件数(1カ月当たり)の平均値5%増とする。

項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（人）	10,084	10,084	8,800	8,800	8,800	8,800	8,800
実績値（人）	8,328	8,449	6,890	4,261	5,065	7,170	/
達成度（%）	82.6%	83.8%	78.3%	48.4%	57.6%	81.5%	0.0%

指標3	津久井合唱館
指標名（単位）	施設の年間利用件数 単位:件(コマ)
指標式と指標の説明	午前、午後、夜間の区分を1コマ=1件とする。 目標数値は平成28年度と平成29年度の2年間の利用コマ数(1カ月当たり)の平均値5%増とする。

項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（件）	245	245	200	200	200	200	200
実績値（件）	183	158	110	20	65	58	/
達成度（%）	74.7%	64.5%	55.0%	10.0%	32.5%	29.0%	0.0%

4 事業の実施状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
A	<p>キャンピングカー交流事業では施設間相互の横断的で効果的な事業展開がなされ、また送迎バス運行事業に関しては施設の設置目的に則した事業が展開された。本施設の指定管理者を長く経験しているという立場を生かした有効な自主事業展開がなされていることが評価できる。</p> <p>また、ゆず湯事業においては肝心のゆずが不作であったなど、指定管理者の責に抛らない理由により評価年度において事業の実施が叶わなかった事業もあったが、これらについては次年度の実施に期待したい。</p> <p>評価については、基準点に対する達成度が100%以上125%未満となったことから、A評価とするもの。</p>

市が指定する事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
なし			

企画提案事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
なし			

自主事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
道志川イベント	4月9日	野外で「ハーブ」や童謡、歌謡曲を演奏し、いやしの湯やキャンプ利用者へのサービスを実施し、施設の活性化に努めた	○
第23回北丹沢12時間山岳耐久レース	7月3日 (中止)	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
第30回道志川合唱祭及び前夜祭	9月24日、25日 (中止)	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
いやしの湯送迎バス運行事業	10月～3月	地域住民の健康増進と交流を図るため、地域振興協議会の協力を得て秋から冬の間の利用者の拡大に努めた	◎
キャンピングカー交流事業	11月6日	キャンピングカーが集結し、交流といやしの湯利用や野菜直売所の利用拡大ができた	○
いやしの湯入浴料金サービス	12月～2月	午後5時以降の入館料を大人550円、子供・障がい者330円	○
ゆず湯	12月22日 (中止)	地域のゆずが不作であったため中止	
新春甘酒サービス	1月2日、3日	新春の入館者にご利用を感謝し甘酒の提供をした	○
冬季ポイントサービス	1月～2月	期間中の平日1回利用につき2ポイント付与のサービスを提供した	○

5 利用者の満足度

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
S	施設利用者数が回復してきたこともあり、休暇村センターでは前年度71枚から91枚に、いやしの湯では前年度151枚から242枚に、津久井合唱館では前年度15枚から27枚にそれぞれ増加した。また、回答数が増加してもなお各施設の実績値は前年度に引き続き高い水準で推移しており、利用者に対して質の良いサービスの提供が継続して行われていることがうかがえる。 評価については、基準点に対する達成度が110%以上となったことから、S評価とするもの。

利用者満足度調査	3施設の平均値						
項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（％）	80	80	80	80	80	80	80
実績値（％）	78.0	82.7	79.3	98.3	98.3	98.0	/
達成度（％）	97.5%	103.3%	99.2%	122.9%	122.9%	122.5%	0.0%

利用者満足度調査	緑の休暇村センター						
調査手法/サンプル数	利用者満足度調査(アンケート用紙による満足度調査)/91件(令和4年4月1日～令和5年3月31日実施)						
目標値の基準	接客、食事など各項目の満足度の「普通」以上の割合が8割以上 ※R1は「満足」と「やや満足」の合計が8割以上 ※H29-H30年度は設問が異なるため参考値						

項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（％）	80	80	80	80	80	80	80
実績値（％）	77	98	62	97	100	99	/
達成度（％）	96.3%	122.5%	77.5%	121.3%	125.0%	123.8%	0.0%

利用者満足度調査	青根緑の休暇村いやしの湯						
調査手法/サンプル数	利用者満足度調査(アンケート用紙による満足度調査)/242件(令和4年4月1日～令和5年3月31日実施)						
目標値の基準	総合的な満足度の「普通」以上の割合が8割以上 ※R1は「満足」と「やや満足」の合計が8割以上 ※H29-H30年度は設問が異なるため参考値						

項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（％）	80	80	80	80	80	80	80
実績値（％）	78	77	83	98	95	95	/
達成度（％）	97.5%	96.3%	103.8%	122.5%	118.8%	118.8%	0.0%

利用者満足度調査	津久井合唱館						
調査手法/サンプル数	利用者満足度調査(アンケート用紙による満足度調査)/27件(令和4年4月1日～令和5年3月31日実施)						
目標値の基準	施設管理状況、利用料金、接遇、総合的な満足度の「普通」以上の合計が8割以上 ※R1は施設管理状態、利用料金、接遇、総合的な満足度の「満足」と「やや満足」の合計が8割以上 ※H29-R1年度は設問が異なるため参考値						

項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（％）	80	80	80	80	80	80	80
実績値（％）	79	73	93	100	100	100	/
達成度（％）	98.8%	91.3%	116.3%	125.0%	125.0%	125.0%	0.0%

その他の取組		
取組事項	時期	取組内容
なし	/	/

6 施設の経営状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
C	施設収支については、利用率の回復にともない利用料金収入自体は増加したものの、原油価格の高騰による電気料金等の支出増が大きく、本体事業収支、全体収支のいずれも赤字となった。また、販管費の多さや人件費の削減等について指摘があり、「団体本体の経営状況に若干の懸念がある。」との評価となった。 以上のことより、得点が5点となったことから、C評価とするもの。

施設の収支概要		※直近3年間について記載			(千円)
項目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
収入 (a)		115,530	118,800	78,586	
	指定管理料	716	714	714	
	利用料金収入	38,140	50,842	63,493	
	その他の収入	76,672	67,243	14,379	
支出 (b)		83,823	91,417	94,528	
	人件費	22,162	25,251	27,471	
	本社管理経費	39,513	44,468	60,916	
	その他の支出	22,147	21,697	6,140	
本体事業収支 【(a)-(b)】 (c)		31,706	27,382	-15,941	
自主事業収入 (d)		21,498	18,880	39,732	
自主事業支出 (e)		31,839	31,296	40,583	
自主事業収支 【(d)-(e)】 (f)		-10,341	-12,415	-851	
全体収支 【(c)+(f)】		21,365	14,967	-16,793	
備考	※千円未満は切り捨て処理				

団体の財務状況	団体本体の経営状況について若干の懸念がある。
---------	------------------------

7 管理業務の履行状況

検査方法	履行管理に関するチェックシートを使用した現地調査、指定管理者へのヒアリング
実施時期	令和5年2月14日：緑の休暇村センター及び青根緑の休暇村いやしの湯 令和5年2月24日：津久井合唱館

検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	適正に実施	
人員配置・地元活用	適正に実施	
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	適正に実施	
情報公開・個人情報保護	適正に実施	
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	
有	施設従業員は100%（いやしの湯は89%）が市内に居住する人員である。また、業務の再委託はボイラー保守等の専門的な知識を必要とするものを除いてすべて市内業者を活用しており、積極的な地元活用が図られている。	

8 ウェブアクセシビリティ

ホームページの作成	有
-----------	---

ウェブアクセシビリティの取組項目	取組状況
機種依存文字を使っていない。	○
ページ内の文字の大きさを変えることができる。	×
単語の途中にスペースや改行を入れていない。	○
ページ内容を的確に表しているタイトルが付いている。	○
ダウンロードできるファイルには、ファイルの種類とサイズを記載している。	×
画像には、代替テキスト等を付与し、支援技術利用者にも適切な代替情報を提供している。	×
背景色と文字色にコントラストを確保するなど、色使いに配慮している。	×
その他取り組んでいること	

9 指定管理者の自己評価

令和4年度は、新型コロナウイルス関係による施設の休業や営業時間の短縮がなく1年間営業することができ、結果売り上げはいやしの湯が対前年度比約147%、緑の休暇村センターは約169%になり、相模原市から11,000千円もの支援も受けました。しかし、原油価格の高騰により電気料金が著しく増加し、灯油価格も増加したため経費の削減に取り組みましたが全体では経常利益が赤字となりました。資材の調達が厳しい状況から水中井戸ポンプを導入し、故障による長期休業のリスクを解消する対策を講じました。

10 所管課意見

成果指標の達成度はD評価となったものの施設利用者数は概ね復調傾向にあり、新型コロナウイルス感染症の流行により離れてしまった利用者の呼び戻しや新規利用者の獲得に一定の成果があったものと評価する。

自主事業について、道志川イベント、いやしの湯送迎バス運行事業、入浴料金サービス等の自主事業を実施し、地域の活性化等に貢献している点については評価できるが、評価対象となる事業数自体が少ない印象がある。

今後は、新たな事業を検討するとともに、現行事業については実施方法を見直す等により、指定管理者の創意工夫を凝らした積極的な事業の展開を期待したい。

現指定期間の最終年度となる次年度は、指定管理者がこれまでに蓄積してきたノウハウを存分に発揮していただき、5年間の集大成となるよう施設運営に努めていただくとともに、市としても、施設の有するポテンシャルを最大限生かした管理運営が図られるよう、引き続き指定管理者と一体となって取り組んでまいりたい。

11 審査委員会意見

【意見、提案】

- ・HPに混雑状況などを記載したことは評価できるが、利用者はいつなら予約を取れるのかを知りたい。今後日付けごとの表示をされるとのことだが、予約システムと連動して、改善されることを望む。
- ・ウェブアクセシビリティで、「ページタイトルが適切に作成されていない」「ダウンロードできるファイルの種類とサイズが明示されていない」「画像に代替テキストが付与されていない」「色使いの配慮が不十分」などの課題がある。公的施設であることを考慮し、視覚等障害者へ配慮されたい。
- ・YouTubeの利用は積極的に行われていて評価できるが、サイト内の表示については、課題がある。テニスコートのページで、動画が「他のウェブサイトでの再生は、動画の所有者によって無効にされています」と表示されており、事実上リンクが切れた状態を表示している。リンクの貼り方を改善する等対応されたい。
- ・FacebookやTwitterでの発信は検討中ということだが、積極的に発信してほしい。緑区役所Twitterアカウントのミウルとの関係は、リツイートする関係で十分ではないだろうか。自主的な広告活動を積極的に行ってほしい。
- ・満足度調査について、前年度よりサンプル数も増やし、かつ全体的な満足度も上昇しているのは運営されている皆さんの努力の賜物だと思う。しかし、通年で調査を行っている割には、休暇村センターの利用者が2,240人に対して91、いやしの湯が86,042人に対して242の回答数では少なく、実態を調査しているとは言えない。どの施設に対しても、合唱館のように1割程度のサンプル数は必要であろう。期間を定めて利用者全員にアンケートを配るなどの工夫が必要である。
- ・いやしの湯は来場者の地域、年代が平均的全般に分布しており、広い層から支持されていると思う。だからこそリクエストが多く、そのリクエストに対応していく必要性を感じる。
- ・コロナ禍の中で前年と比較すれば売上は相対的に増加しているが、人件費、光熱費等の費用が増大して決算ではマイナスになっている。津久井合唱館、休暇村センターでは冬場の来店数が少なく、冬場でのイベント企画を考えてもらいたい。合唱館は地域外にもアピールしてもらいたい。休暇村では天体観測のイベント等も良いのではないか。自主事業について施設内で検討される事を望む。事業での経費の検討も必要であると思う。
- ・いやしの湯の取組状況等については、特に非公募施設であることを鑑み、他の類似施設を参考にノウハウを蓄積するなど、市民に説明できる一層のサービス向上と魅力づくりが必要と考える。
- ・事業の実施状況評価について基準点や評価方法の改善を望む。

総合評価（自動判定）

B

(60/100)

